

母校スーパーサイエンス校「先導的改革型」 『全国で1校』の指定を受ける



〒387-0007 長野県千曲市屋代859-10
発行所 長野県屋代高等学校
同窓会
電話番号 (026) 274-3310
ホームページ http://hatokai.jpn.org
発行人 赤地憲一
印刷所 カシヨ株式会社

全国の指定校で3例目

文科省は、平成14年度、科学・理数教育を重点的に行う研究開発校として「スーパーサイエンス校」を立上げ、これまで217校が指定されたが、本学は平成15年度に第1期指定を受け、実験実習に重きを置き、大学等との連携により魅力的な科学理数系教育を行ってきた。第4期指定が昨年度で終了となることから、学校では第5期申請に向け万端の準備を整え、これが結実し、別表の通り「全国で1校」の指定の栄に輝いた。

高澤校長先生は「第7期指定は誠に喜ばしく、長野県理数教育のフロントランナーとして責任を全う

★印は5期連続指定校

都道府県名	平成14年度指定	同15年度指定
北海道	札幌北	帯広柏葉
北海道・東北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島	水沢 大館鳳鳴館
関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川	竹園 宇都宮 高崎女子 早稲田大学本庄 千葉 筑波大駒場・東工大附属 柏陽
中部・東海・北陸	新潟 富山 石川 福井 長野 岐阜 静岡 愛知	新潟南 高岡 金沢泉ヶ丘 高志 ★屋代 岐阜山 磐田南 一宮 四日市
近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	★立命館・京都教育大付属・堀川 北野 姫路大付属 西大和学園 桐蔭
中国・四国	鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知 福岡	鳥取東 松江東 岡山一宮 広島大附属 岩国 城南 三本松 ★松山南 高知小津 修猷館
九州・沖縄	長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄	謙早第二 宮崎北
計	26校	26校



活気あふるる母校に敬服 「ケネディ校長」(伊沢集治先生)のこと(その一)

会長 赤地憲一 (高17回)

令和3年度を迎え、皆様には、「コロナ」の状況下にもかかわらず、母校並びに同窓会のために格別なご支援を賜り、心より厚く御礼を申し上げます。

まずは、本年度総会が新型コロナウイルスの感染状況にかんがみ、規模を縮小して開催させていただきましたこと(支部長のみ)にご承賜りたく存じます。ご報告として、令和5年に迫った100周年記念事業について、本紙74号にて工程表でご提案したものが、また、名誉会員として、別掲載の南澤道人氏(中18回)と、中村浩志氏(高17回)が承認いただきましたことを申し上げます。

さて、母校の令和3年度は、大学等進学実績での更なる躍進(「ユース版」参照)で明けましたが、続いてスーパーサイエンス校として、平成15年度に指定されて以来、連続5期20年間の認定が文科省から認められることになりました。高澤邦明校長先生はじめ、ベクトル方向を同じくして、生徒たちに良き指導いただいた先生方に、心よりの敬意とお慶びを申し上げます。

高校総体・文の県大会関係でも、ハンドボール、テニスという伝統的な班は、さて置き、弓道をはじめ6班が、県優勝、代表の栄冠に輝きました。サッカー班においては、「強豪私学6校+公立2校」でのベスト

8の仲間入りを果たしました。古希の半ばを歩む我々の世代(高14回生・19回生)が高校時代を顧みる時、まず思い出される恩師がいる。第10代校長・伊沢集治先生です(写真註1)。



アメリカ大統領J・Fケネディにその風貌が似ていたからだが、その歩く姿は威風堂々と、音吐朗々とした演説はマイクの施設があるにもかかわらず、使わず、旧講堂の隅々までその巨腹から出る声がピンピンと響いた。(註2)。

新型コロナウイルスで予断の許さない状況の中、会員皆様の切なるご健勝、益々のご活躍をお祈りして、ご挨拶といたします。

伊沢集治校長(下伊那郡那珂村出身、旧制飯田中学第27回、東京文理大(筑波大学)前身)卒、昭和43年松本深高校長から第5代長野県教育長に就任、同47年退任(註2)。「屋代高校60年史」692頁

令和3年度定期総会、縮小開催

令和3年度定期総会開催

去る5月29日(土)に「コロナ」の感染防止から、支部長のみに出席要請し、20名の支部長が出席した。令和2年度事業報告、同決算報告、令和3年度事業計画(案)、同予算(案)、屋代高校創立100周年・附属中学創立10周年記念事業実施計画(案)、役員推薦について(案)などが諮られた。事業案(特に100周年関係)には活発な意見交換がなされた末、全案が承認された。前年度の決算、本年度の予算については別表のとおり。

「会員名簿」 「100年史」の進捗

「会員名簿」刊行は、プライバシーマーク取得のデータ整備専門会社「(株)サラト」に委託して発行を期することにし、去る5月から調査ハガキ等が会員皆様に郵送され始めた。

また、記念史編集事業は6月12日(土)の編集会議を経て、7月末には第一次原稿が締切られる。編集作業はいよいよ佳境に入った。

支部長、いつの間にか

前年度をもって退任した支部長は以下の方々です。多年に互

令和2年度一般会計決算書

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

収入金額	12,269,001円	支出金額	10,896,023円	差引残高	1,372,978円 (次年度繰越金)
収入の部 (単位:円)					
科目	予算額	決算額	増△減	備考	
1 繰越金	1,279,978	1,279,978	0	前年度より	
2 入会費	2,820,000	2,820,000	0	10,000円×新入生282人	
3 年会費	7,200,000	7,688,000	488,000	振込延べ1,496人、支部2,348人	
4 協力金	130,000	230,000	100,000	千曲鳩会・弓道班OB会・会員御遺族寄付	
5 校友会費	240,000	240,000	0	3,000円×中学新入生80人	
6 雑収入	22	11,023	11,001	名簿売上、コピー代、利息	
合計	11,670,000	12,269,001	599,001		

支出の部 (単位:円)					
科目	予算額	決算額	増△減	備考	
事業費	5,460,000	3,693,335	△ 1,766,665		
1 総会費	70,000	61,608	△ 8,392	資料等作成費、退任支部長感謝状、他	
2 会議費	60,000	19,243	△ 40,757	役員会、学校諸会議、お茶代等	
3 支部助成費	1,200,000	949,200	△ 250,800	会費還元、支部総会祝儀等	
4 会報発行費	2,700,000	2,025,764	△ 674,236	会報印刷代、郵送料等	
5 入学・卒業記念代	350,000	345,740	△ 4,260	入学・卒業生記念品代	
6 [鳩の会]助成費	750,000	250,000	△ 500,000	NPO[鳩の会]助成	
7 その他事業費	330,000	41,780	△ 288,220	全国大会祝金、懸垂幕	
8 慶弔費	180,000	167,334	△ 12,666	入学・卒業式生花、供花、饗別、他	
9 旅費交通費	420,000	258,500	△ 161,500	役員会・支部会費納入・会報受領等の旅費	
事務局費	2,300,000	1,589,686	△ 710,314		
10 雑給	1,650,000	1,254,010	△ 395,990	事務局関係謝礼、各種御礼、他	
11 消耗品費	120,000	32,392	△ 87,608	用紙類、事務用品、手指消毒アルコール等	
12 通信費	350,000	132,045	△ 217,955	はがき、切手、電話・ネット料金等	
13 電算処理費	30,000	20,000	△ 10,000	IT指導料	
14 事務局管理費	150,000	151,239	△ 1,239	複合機リース代	
15 手数料	350,000	314,180	△ 35,820	年会費取扱手数料、振込手数料等	
16 特別基金会計積立	1,700,000	3,700,000	2,000,000	100周年のため特別基金会計に繰出し	
17 会館維持基金積立	1,000,000	1,000,000	0	新規「会館維持基金」に繰出し	
18 雑費	70,000	33,086	△ 36,914	新聞広告、接待茶葉、他	
19 予備費	190,000	139,902	△ 50,098	百周年記念史委員会交通費、会館掲示用品、他	
合計	11,670,000	10,896,023	△ 773,977		

令和3年度一般会計予算書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

収入金額	11,763,000円	支出金額	11,763,000円	
収入の部 (単位:円)				
科目	本年度予算額	前年度予算額	増△減	備考
1 繰越金	1,372,978	1,279,978	93,000	前年度より
2 入会費	2,820,000	2,820,000	0	10,000円×新入生282人
3 年会費	7,200,000	7,200,000	0	振込1,350人、支部2,250人
4 協力金	130,000	130,000	0	寄付等
5 校友会費	240,000	240,000	0	3,000円×中学新入生80人
6 雑収入	22	22	0	利息、他
合計	11,763,000	11,670,000	93,000	

支出の部 (単位:円)				
科目	本年度予算額	前年度予算額	増△減	備考
事業費	5,470,000	5,460,000	10,000	
1 総会費	80,000	70,000	10,000	資料作成費、感謝状作成・送付代等
2 会議費	50,000	60,000	△ 10,000	役員会、学校・PTA諸会議、お茶代等
3 支部助成費	1,200,000	1,200,000	0	会費還元、支部総会祝儀等
4 会報発行費	2,700,000	2,700,000	0	会報印刷代、郵送料等
5 入学・卒業記念代	350,000	350,000	0	NPOに移行
6 [鳩の会]助成費	1,340,000	750,000	590,000	NPO[鳩の会]助成
7 その他事業費	100,000	330,000	△ 230,000	懸垂幕、(全国大会出場祝金はNPOに移行)
8 慶弔費	180,000	180,000	0	香典、弔電、饗別、入学・卒業式生花等
9 旅費交通費	420,000	420,000	0	支部総会、役員会、会報受領等の旅費
事務局費	2,290,000	2,300,000	△ 10,000	
10 雑給	1,650,000	1,650,000	0	事務局関係謝礼、各種御礼、他
11 消耗品費	120,000	120,000	0	封筒、用紙類、事務用品
12 通信費	350,000	350,000	0	はがき、切手、電話・ネット料金等
13 電算処理費	20,000	30,000	△ 10,000	IT指導料
14 事務局管理費	150,000	150,000	0	複合機リース代、他
15 手数料	350,000	350,000	0	年会費取扱手数料、振込手数料等
16 特別基金会計積立	2,410,000	1,700,000	710,000	100周年のため特別基金会計に繰出し
17 会館維持基金積立	400,000	1,000,000	△ 600,000	会館維持基金に繰出し
18 雑費	70,000	70,000	0	卒業アルバム、新聞広告、接待茶葉他
19 予備費	173,000	190,000	△ 17,000	
合計	11,763,000	11,670,000	93,000	

るご苦労に深甚なる敬意を表します。
支部 お名前(卒業回期)
(順不同・敬称略)
八幡 酒井貞之(高3回)
東条 毛利宣熙(高15回)
川柳 小林武(高16回)
共和 野口弘夫(高16回)
中津 北村憲一(高18回)
宮守 春原守(高19回)

また、名誉会員として、会則8条の規定により、南澤道人氏(永平寺貫首・曹洞宗管長、中18回)と中村浩志氏(国際鳥類学者、信州大学名誉教授・高17回)の推薦があり、満場一致で承認された。南澤氏については、友人の山口昭氏(中18回)が、第3面に懐旧談を寄せている。

名誉会員に南澤氏、中村氏

(1面から)
初年度指定二十六校のうち途切れることなく継続指定された高校は3校だけで、そのうち2校が昨年度新たに設けられた第V期の指定を受け継続しています。

2 本校への評価

第V期はこれまでの「実践型」とは異なり、「先導的改進黨」という新たな類型となり、科学技術人材の育成において先導的な役割を担い、自校の取組による成果を全国に普及させることをミッションとしています。本校も平成十五年から途切れることなく指定を受け続け、昨年度が第IV期の終了年度でした。そのため、昨年度末に第V期の申請を行い、本校を含め5校が採択されました。現在多くのSSH指定校から視察等の問い合わせがきています。

母校生徒の活躍 2面から

《文化班》

◆文学部2年連続4回目
俳句甲子園へ
2年連続、5年間で4回目の俳句甲子園への出場。ただし、コロナ禍での開催ということで、投句による審査によって、全国上位4校のみが四国松山に行くことができる。班員は本戦出場(8月22日)を目指して作句に励んでいる。

◆廣川靖弘君(3年7組)
閉基県準優勝へ全国へ
6月6日(日)、松本で開催された第45回文部科学省杯全国高校閉基選手権長野県大会において、廣川君は準優勝(男子個人)の部となり、8月17日、19日に東京で開催される全国大会に出場する権利を獲得した。尚、廣川君は8月3日、4日の「わかやま総文祭」にも閉基団体県チームの主将として出場することになっている。

◆ギター・マンドリン班

◆今年も全国大会へ
昨年はコロナ禍のために大会自体が中止となったが、今年は何とか開催は決定した。ただし、無観客で、という条件付きである。それでも2年ぶりに大阪に集結する全国の仲間とともに一杯マンドリンの音を奏でよう。

◆新聞班全国総文祭へ

新聞班2年生2名(2組宮澤圭伊君・7組海沼さやさん)は8月4日、6日に和歌山県和歌山市で開催される第45回全国総文祭新聞専門部に参加することが決定した。

3 今後の展望
さらに第V期では、「未来の科学技術イノベーションを担う創造性豊かな探究力を持った人材育成」をテーマに、理数科生・一貫生・選抜生それぞれに育成方針を定め、ディサイエンスの活用や大学等の外部機関と連携した専門性の高い課題研究の実践、SDGsの取組など未来型のSSH事業の実践が計画されている。

第一面から 名誉会員の紹介

南澤道人氏(永平寺貫首・曹洞宗管長、中学18―5回)
中村浩志氏(国際鳥類学者、信州大学名誉教授・高17回)

畏友、南澤道人方丈を祝す

元山口内科小児科医院・院長 山口 昭
旧制屋代中第18―5回、松本医専(信州大学医学部の前身)卒業、医学博士。旧更級郡羽尾村のお生まれで、旧姓は高村。

コロナ感染症の感染拡大が懸念され、社会的にも不安で厳しい昨今、この度、私共の同級生(屋代中学18回卒)南澤道人方丈が、永平寺貫首と曹洞宗管長に就任されますことは、誠に大きな喜びに存じます。

道人方丈とは、私の生家(高村)が、彼の龍洞院の檀家の一員であったり、旧制屋代中学の同級生でもあり、多くのご縁を頂いており、戦後、私の父親の他界にあたって、道人さんにお世話になったものです。彼は、温厚なお人柄ですが、意志の強い、しつかりとした方、かつ学生時代から大変優秀な賢人です。当時の中学には申合せがあり、質実剛健がモットーでしたから、通学距離が4キロ未満は徒歩通学で、自転車は不可でした。また真冬でもオーバーコートを着ないというので、お互い通学をしていました。

私が驚いたことは、太平洋戦争末期(昭和19年頃)に、ご長男である道人さんが、自ら海軍兵学校に進むと言われたことです。私には、その理由がどうしても判らなかつたものでしたが、後で知ったことですが、これは、彼には兄弟が7人おり、ご尊父も病身でおられたことを自覚され、また道人さんご本人も海が好きであったことによるものでした。お父様は、道人さんの海軍兵学校に出発の際にも

道人方丈は、国内外で卓越された修行の成果を上げておられ、平成20年には、ご本山の副貫首に任命され、お山と兼ねることになりました。また札幌中央寺の住職として、国外ではインドや中国の寺院におけるご貢献、特に日韓佛教文化交流大会を主催され、その総裁を務められました。フランスにおいて、フランス佛南山觀照寺を建立され、修行の場として多くのお弟子さんをお持ちです。中央寺での16年に及ぶお努めは、勿論、今回の御参進に無関係ではなく、ご同慶の至りです。

ホームカミング鳩会・支部だより

順延となっているホームカミング鳩会

回 期	実施予定期日
高41	令和4年8月15日
高51	令和4年9月4日
高63	令和4年9月18日
高60	令和4年9月25日
高30	令和4年11月6日
高21	令和4年11月13日

支部だより

◎西尾尾支部

支部長 田野口純二(高12回)
《仏文学者・詩人大島博光氏(旧制中1回)の出身地》

当支部(旧更級郡西尾尾村河東地区)は、松代大橋東側・長野(松代線沿い)にある140戸前後の小集落です。地区内には、長野インターや、長野ロイヤルホテル、消防署、老人福祉施設等と、スーパー・コンビニ・食堂が各々2軒出来るなど、小さな村が町から市になり以前と大変変わりました。

旧制中学1回生(昭和3年卒)の仏文学者・詩人大島博光さん(14年前、松代町清野地区に「大島博光記念館」開設)から現在まで100年近くにな

◎西条支部

支部長 栗林秀夫(高19回)
《今年こそ支部総会を!》
西条支部は、現在会員数は59名、うち役員構成は12名で年2回の会報配布が基本になっています。しかし、ここ数年間は新型コロナウイルスの感染拡大等で支部総会が開かれないうちに、今年こそ支部総会を開催するべく準備を進めています。

今後ワクチン接種が進み、感染拡大に歯止めがかかれば、8月の会報を配布しながら、支部総会開催の案内を配布したいと思っております。

課題は、やはり支部活動の活性化と若年層への加入勧誘。まず、支部総会の内容を魅力あるものに工夫して、一人でも多く参加できるように取り組みたい。

◎坂城支部
支部長 山城修二(高17回)
《生まれわたりの支部です》
当支部は昨年半ばに充足しました。それまでは親睦会を行っていましたが、先輩である前坂城町町長 中沢一(ひとし)様の熱意の元、発展し支部となりました。

しかし、すぐにコロナ。集まるな、触れ合うな、また最近では飲むな、では家に籠って待つしかない。また活動実績がありません。ひたすらワクチン接種が終わって落ち着くのを待っています。

◎静岡支部
支部長 飯島庸男(高22回)
《コロナ収束後を目指して》
昨年度は、コロナ感染による緊急事態宣言があり、残念ですが、支部会は開催できませんでした。

本年7月中旬には、コロナワクチンの2回目接種が完了したメンバーが集まり、今年度の支部会開催に向けて、打ち合わせを予定しています。早く、コロナ禍収束を祈る次第です。

また次の100年に向けて、屋代高校が益々発展することを陰ながら祈念しております。

今春の人事異動

屋代高等学校・附属中学校(敬称略)

転出(異動)・退職者				
教科	職名	氏名	転出先等	任期
国語	教頭	宇部宮仁	上田東(教頭)	1年
国語	副校長	宮島卓朗	裾花小学校(校長)	2年
国語	教諭F	吉沢道夫	長野西	7年
国語	教諭	石井和馬	篠ノ井西中学校	3年
地公	教諭	荒川雅之	上田	2年
地公	教諭	宮坂正樹	長野工業	7年
数学	教諭F	柳沢芳久	屋代南	8年
数学	教諭	吉田朋史	信更中学校	4年
理科	教諭	倉田亮輔	須坂	6年
理科	教諭	堀内栄子	更級農業	7年
理科	教諭F	藤森俊彦	長野工業	1年
理科	教諭	北山泰史	柳町中学校	2年
理科	実助	清水加奈	松代	7年
保体	教諭	山本臣也	スポーツ課国体準備室	5年
保体	非講	斎藤匠	上田第一中学校(新規採用)	1年
書道	教諭	宮島美保	退職	6年
英語	教諭F	小林容子	長野吉田	2年
英語	教諭	春日秀紀	戸倉上山田中学校	3年
養護助手		川口真子	小諸商業	1年
専門幹兼事務長補佐		新津正彦	北信建設事務所	2年
事務	校技	山寺義一	退職	1年
事務	校技	青木利枝	退職	臨任

転入(異動)者				
教科	職名	氏名	前任教等	備考
理科	教頭	塚田武明	長野(定)(教頭)	
理科	副校長	一色保典	学びの改革支援課	
国語	教諭	竹内久美子	上田	(附属中)
国語	教諭	小林厚志	丸子北中学校	
地公	教諭F	長田勝宏	須坂	
地公	教諭	神田弓月	下高井農林	
数学	教諭	中條秀志	上田	
数学	教諭	増野将之	東御市東部中学校	(附属中)
理科	教諭	志真秀行	田川	
理科	教諭	塩原啓佑	新規採用	
理科	教諭	横前雅史	屋代中学校	(附属中)
理科	実助F	西村明巳	屋代南	
保体	教諭	若林久人	坂城	
保体	非講	久保田聖也	岡谷工業	更農兼務
書道	教諭	佐藤充	長野	
英語	教諭	青木郁子	松本深志	(附属中)
英語	教諭	荒井俊亮	梓川中学校	
養護助手		佐藤由美	新規(非常勤)	
専門幹兼事務長補佐		神戸淑子	屋代南	
事務	主査	小川伸一	坂城	

令和3年春の叙勲

次の方が受章されました。誠におめでとうございます。(敬称略)

瑞宝中綬章 (高10回) 近藤慶之 (高10回) 現住所 千曲市

旭日小綬章 原 利夫 (高6回) 現住所 千曲市

瑞宝双光章 佐藤則善 (高4回) 現住所 長野市

矢羽勝幸氏 (高16回) 著 「漂白の俳人 常世田長翠」 「俳人鈴木道彦の生涯と作品」

寄贈・既刊図書紹介

矢羽氏は押しも押されぬ一茶研究の第一人者。その氏が江戸後期の行脚俳人長翠の生涯の足跡を具に辿り、その業績をまとめたのが「漂白の俳人常世田長翠」。そしてこれも江戸後期の俳人鈴木道彦の生涯をまとめたのが「俳人鈴木道彦の生涯と作品」である。長翠も道彦もこの時代の先達加舎白雄(上田藩士)の指導を受けその句業を継承し、その後離反した点でも共通している。この両著は、氏の終生のテーマである「加舎白雄とその門流の研究」の一環として一読に値する。



初蝶の白きは 露の果てなるか 長翠

よき人の よき中に似し春の風 道彦

山崎裕一氏 (高9回) 著 「麗峰巡歴」(写真集) 神宿る山々に魅せられて

今年83歳になる山崎氏による2013年〜19年に撮影した59ページの写真集。掲載の写真はヒマラヤ(エベレスト、ローツェ、タウラギリ、マナスル、アンナプルナ等)、ヨーロッパ(モンブラン、モンテローザ、マナスル等)。そしてアラスカ、パタゴニアの霊峰の数々。加えて高山植物やオーロラ、氷河…。その絶景に息を呑む!

(相談役 徳高芳夫)



第68回同窓会 ゴルフコンペ

実施日: 5月13日(木) 会場: 南長野ゴルフ倶楽部 参加者: 18名

優勝: 島田久敏 (高15回) 準優勝: 久保嘉男 (高13回) 三位: 関森 毅 (高10回)

【お知らせ】 第69回屋代高校同窓会 ゴルフ愛好会コンペ

令和3年9月16日(木) 南長野ゴルフ倶楽部 長野市大岡中牧274の1 連絡先 026-266-2000

「鳩の会」(母校の教育活動支援) 賛助御礼

母校の教育活動支援(「鳩の会」)のため、令和2年9月から令和3年6月までの間に、505,000円のご賛助を賜りました。令和2年度の母校の主な助成は次のとおりです。屋高フオーラム・SSH一人一研究・附属中棚田体験学習・附属中AI・教材導入費・ICT教育機材購入費・教職員研修費等

氏名	卒業回数	氏名	卒業回数	氏名	卒業回数
水澤 雄也	高2	南嶋 俊三	高21	近藤 信昭	高32
竹内 長生	高6	吉川 正徳	高22	宮原 明和	高32
若林 忠	高9	尾澤 学	高25	飯島 由美	高33
石坂 信也	高11	北島 祥至	高25	志津 享	高33
赤地 憲一	高17	徳永 次男	高25	長谷川はるみ	高34
中村 勇	高18	宮原 一治	高25	内藤 信一	高35
高山 吉富	高19	柴田 幸一	高26	大西 禎彦	高36
徳高 芳夫	高19	柳澤 修嗣	高28	馬場 正一	高36
工藤 正	高19	小林 敏一	高29	織 英子	高42
橋詰 治明	高19	新津知可子	高29	赤地 陽子	高49
倉石 雅史	高20	三枝 是	高31	國枝佳代子	高51
杉浦 一弥	高21	小林 武広	高32		

「鳩の会」(母校の教育活動支援)へご賛助のお願い

「鳩の会」は、広く会員の皆様のご賛助を募り、屋高フオーラムや附属中学校への助成、先生方の諸研修など母校の教育活動の支援を行っています。母校の一層の充実・発展のため、ご協力いただける方は、下記口座までお振込みくださいますようお願い申し上げます。 郵便局 No.0057010144020 加入者名「鳩の会」 ※同窓会事務局(☎026-274-3310)にご一報いただければ「払込取扱票」をお送りいたします。

創立100周年記念会員名簿発行についてのお知らせ

1. 会員名簿に記載される住所の変更は令和3年10月末までにお知らせください。それ以降は訂正ができない可能性があります。 2. 会員名簿購入希望の申込みは令和4年1月末日で締め切らせていただきます。 3. 会員名簿発行委託会社は「株式会社サラト」のみです。それ以外の会員名簿発行の勧誘は屋代高校同窓会とは無関係です。

住所変更などのお願い

転居や結婚などで住所変更や改姓された方、ご逝去された会員のご遺族の方は、お手数ですが同窓会事務局にご連絡ください。平日、午後1時30分から5時30分の間在局しています。なお、ホームページの「問合せ・変更」からも連絡いただけます。

訃報

倉田龍彦氏 (高15回、前民主党長野県連幹事長) 令和3年2月10日、76歳。

昭和56年、42歳で県議選に長野市から初当選、旧社会党出身。以降、学生運動・労働運動の経験を生かして、7期28年間にわたり、県政に貢献された。平成15年県議会副議長、また民主党長野県連幹事長などを歴任され、平成27年に引退後も、野党間連携に精力的に貢献された。

水野 浩先生 (母校ご勤務昭和48年〜平成5年)

昭和48年4月から本校に勤務され、物理の教員として、その後定年までの約20年間在職され、天文班の顧問を務められました。退職後はエクアドルなど海外の天文観測にも出かけるなど、先生の好奇心は尽きることがありませんでした。晩年には、寺社仏閣の調査、特に仏塔の研究に精力を注がれ、毎年、我々教員と野山や歴史の遺構などを散策し、その後酒杯を重ねることを楽しみとされてきました。(第28回生・副会長柳澤修嗣)

木内孝資先生 (母校ご勤務昭和56年〜平成7年)

令和3年3月13日、87歳 美術を担当、彫刻家でもあり、現在の本館改築にあたり、前庭に立つブロンズ像「ミニメント・歩」の制作に当たられ(台座の設計も)平成4年3月に完成された。

故佐藤忠雄氏(中学15回)ご遺族から

10万円の寄付 去る令和2年6月1日ご逝去の佐藤忠雄氏(前「力石化工・株」社長)のご遺族である、同社社長・佐藤洋子氏(ご長女)からご寄付を賜りました。故佐藤氏は坂城支部長としても本同窓会発展にご尽力いただきました。

会員訃報(敬称略)

令和3年7月7日現在 謹んで哀悼の意を捧げます。

結婚支援事業

「マリーメイト鳩の会」

第2回 令和3年9月26日(日) 第3回 令和4年2月13日(日) 会場: 同窓会館「鳩陵ホール」 時間: 午後1時30分〜3時30分 【申込方法・お問い合わせ】 同窓会ホームページをご覧いただくか、同窓会事務局(☎026-274-3310、平日午後2時〜5時)までお問い合わせください。 【申込期間】 開催日の2週間前まで

「無料法律相談会」

第2回 令和3年11月20日(土) 第3回 令和4年3月5日(土) 会場: 同窓会館「鳩陵会館」 時間: 午前10時〜12時 【申込先】 屋代高等学校同窓会事務局 (電話)026-274-3310 【受付期間】 各開催日の4週間前〜1週間前までの平日午後2時〜4時。電話のみの対応です。なお、定員になり次第受付終了となります。 ※詳細はホームページでご覧いただけます。

鳩の目

鯨の声の周波数は通常10〜39ヘルツ。ところが米国西海岸には52ヘルツで鳴く鯨の存在が確認されている。その声は仲間には届かない。世界で最も孤独な鯨。「52ヘルツのクジラたち」(町田そのこ著、2021年本屋大賞)はその存在がモチーフだ。人生を家族に搾取され続けた女性(貴瑚)と、母親に「ムシ」と呼ばれている少年。小さな港町での児童虐待、育児放棄、トランスジェンダー、DVなど、誰にも相談できぬ悩みを抱えた者たちの物語。コロナ禍の下、我々は日常を分断された生活を余儀なくされている。それが繋がると、月日が流れていく。まさに「52ヘルツのクジラたち」だ。苦しい日々はまだしばらくは続く。予防に専念し、身近な目標を定めて着実に歩んでいく以外に方法はない。校是「質実剛健」はそんな時こそ力を発揮することだろう。

編集委員 徳高 芳夫 (高19回) 吉川 正徳 (高22回) 宮原 一治 (高25回) 中宮由紀子 (高40回)